



堀小だより

10月号
No.662

～笑顔と緑あふれる堀之内～ 発行責任者：校長 佐川 英俊

みんなで作る温かな学校

校長 佐川 英俊

休み時間には様々なことが起こります。先日、雨の合間の曇り空の昼休みのことです。校庭の隅で子どもたちの様子を見てみると、「スズメバチだ。」「近づかないで。」という声が聞こえてきました。何があったのか見に行くと、スズメバチが地面で獲物を丸め、運びやすくしているところでした。声をかけてくれた子のおかげで、多くの子どもたちが安全な場所からその様子を観察することができました。

そしてチャイムが鳴りました。いつも六年生はさっと気持ちを切り替えて教室へ向かいます。その姿を見て、低学年の子どもたちも校舎へ入っていきます。ボール遊びをしていたグループでは、決着がついていませんでしたが、一人の子が「チャイムが鳴ったからおしまい。」とボールを抱えると、みんな素直に戻って行きました。実は休み時間には、複数の学年の子どもたちが一緒に遊んでいる姿もよく見られます。子どもたちにとって大切な交流の時間になっているのです。

今年度、本校では「たてわり班活動」をスタートさせました。異学年で交流しながら、思いやりや協力する心、主体的に行動する力を育むことを目的としています。九月十四日の中休みには、第1回目の活動として顔合わせと「名前ビンゴ」を行いました。各班の様子を見て回ると、六年生が中心となって落ち着いて自己紹介やゲームの進行をしていました。まだ少しぎこちない様子も見られましたが、これから回を重ねる中で、互いの名前を覚え、自然に声を掛け合える関係が育っていくことでしょう。

異学年との関わりは、上級生にとっては思いやりや責任感を育む機会となります。また、下級生にとっては上級生への憧れや安心感につながります。こうしたつながりは、たてわり班活動だけでなく、日々の学校生活の様々な場面にも広がっていくものと期待しています。

子どもたちの成長は授業の中だけで見られるものではありません。休み時間や登下校、行事などの日常の中で、社会性や協調性は少しずつ育まれていきます。今回紹介した場面にも、「危険を知らせる」「時間を守る」「周りを見て行動する」「下級生の手本になる」といった姿が見られました。こうした行動の積み重ねが、温かな学校づくりにつながっていくのだと思います。学校は学びの場であると同時に、人との関わりを学ぶ場でもあります。これからも子どもたち一人一人のよさを大切にしながら、互いを認め合い、支え合うことのできる学校を目指してまいります。保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

10月の生活目標



「言葉遣いに気を付けて、落ち着いて過ごそう」

毎日の学校生活を気持ちよく過ごすためには、相手を思いやった言葉遣いを心掛けることが大切です。何気なく発した言葉でも、相手を傷付けたり、不安な気持ちにさせたりすることがあります。反対に、「ありがとう」「大丈夫だよ」「手伝おうか」などの温かい言葉は、周りの人を笑顔にし、よりよい人間関係を築くことにつながります。一人ひとりが思いやりのある言葉遣いを心掛け、落ち着いて過ごしてほしいです。

（生活指導部）